

第1回奈良公園植栽計画検討委員会

補足資料

資料目次

1. 奈良公園植栽計画策定について
2. 計画の展開イメージ
3. 今年度の作業スケジュール(案)
4. 植栽計画に関わる課題と対策（概要）
5. 「過去の景観写真」撮影位置図（資料1 59～74頁に対応）

奈良公園植栽計画策定について

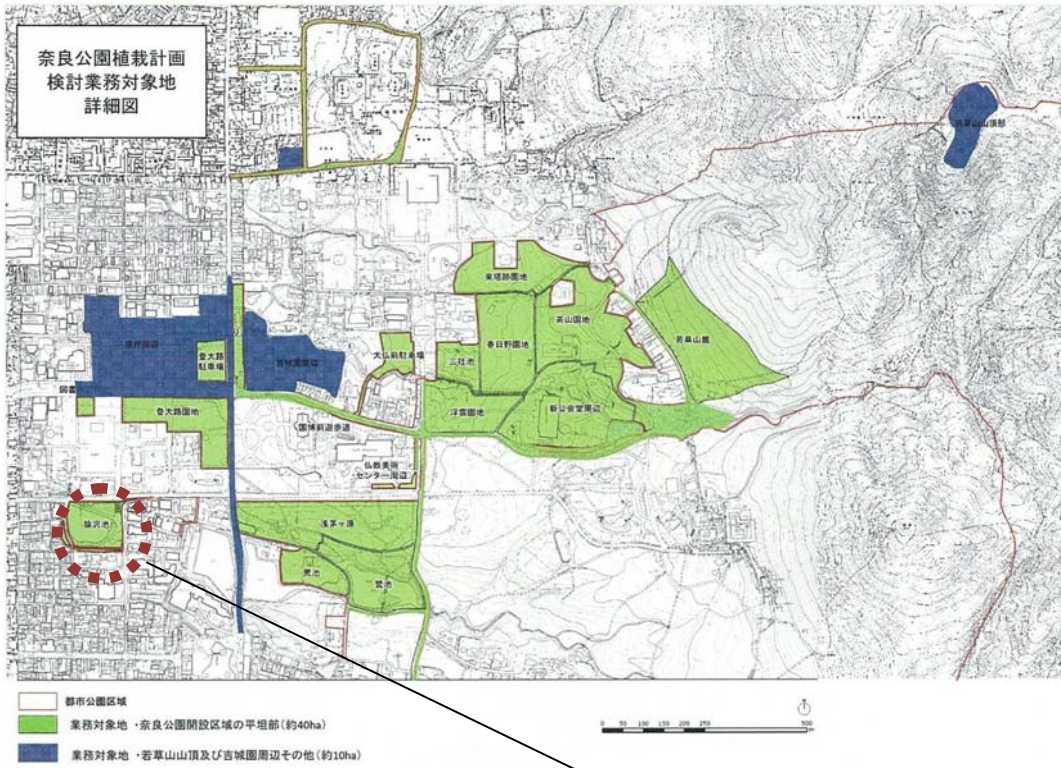
目的

奈良公園を名実ともに「世界に誇れる公園」にしていくことを目指して策定された「奈良公園基本戦略」に基づき、植栽に関する基本的な考え方、今後の方向性を整理して、将来にわたる植栽及び管理の指針となる『奈良公園植栽計画』を策定する。

検討課題

- 植物管理について
 - ・樹木の生長による眺望阻害等に対応するための植栽の適切な維持・管理
 - ・快適な環境作りのための植生植栽の管理水準の維持・向上
- 植栽について
 - ・彩りの付加等による、利用に配慮した奈良公園らしい魅力の向上、名所づくり
 - ・外来樹種の適切な取り扱い

検討範囲



モデル地区想定箇所：猿沢池周辺

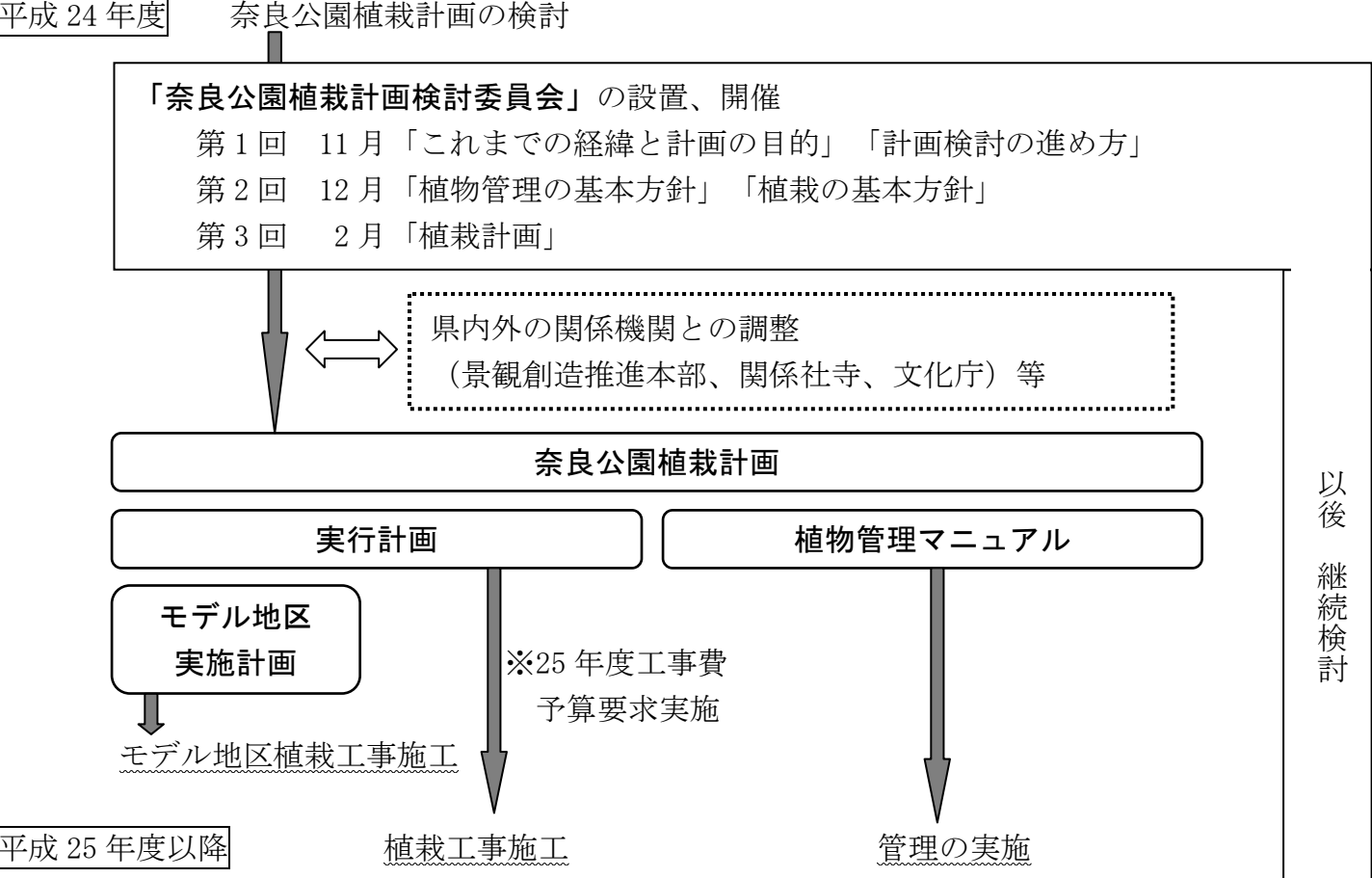
進め方

「奈良公園基本戦略」「名勝奈良公園保存管理・活用計画」を上位計画とし、「奈良県景観創造事業 植栽計画」(景観創造推進本部)と連携して進める。奈良公園個別の検討は「奈良公園植栽計画検討委員会」を設置して進める。

アウトプット

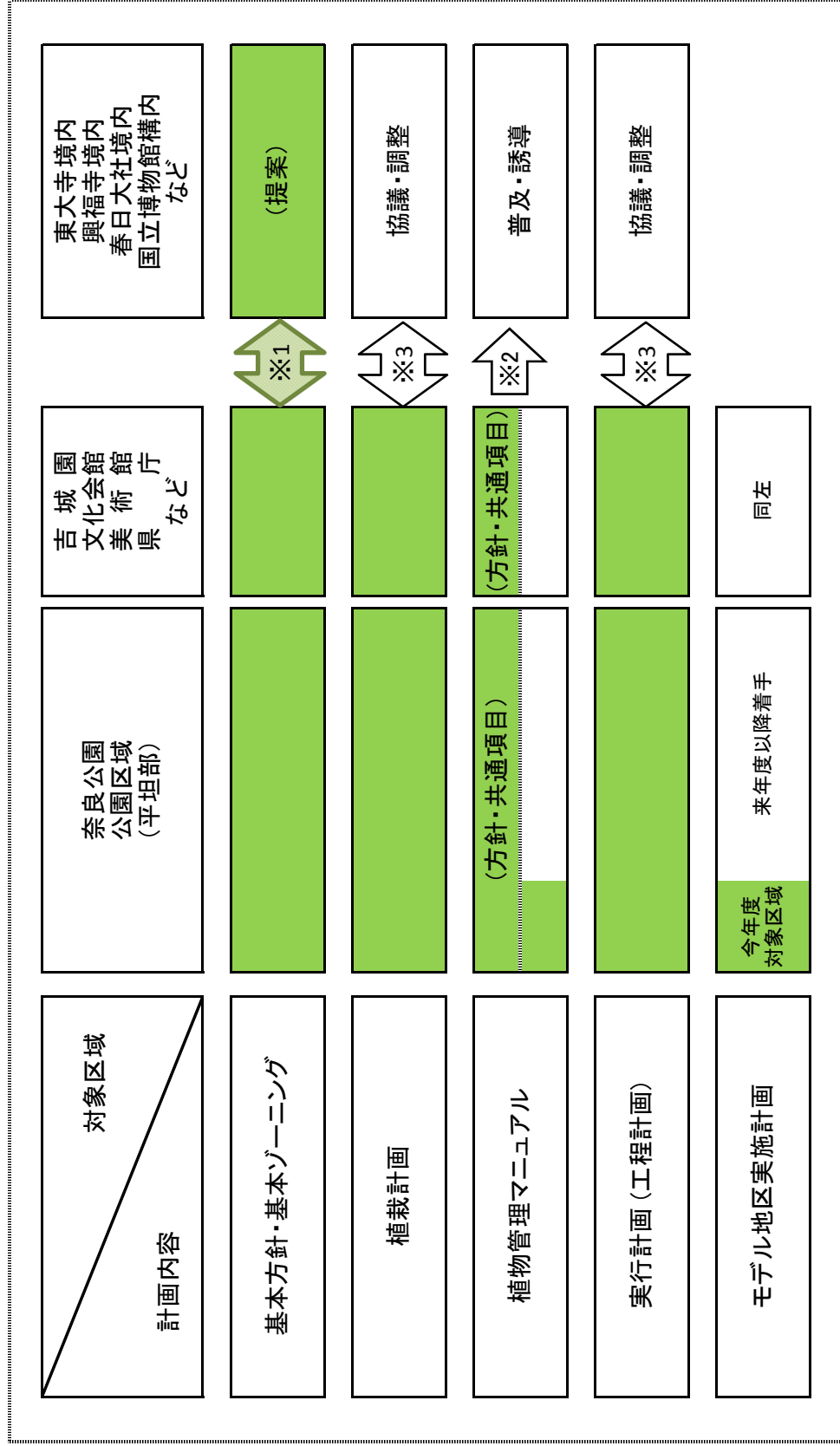
- ・植物管理・植栽の基本方針
- ・植栽計画(ゾーニング、計画目標、景観目標像、現状変更の取り扱い)
- ・植物管理マニュアル
- ・実行計画の検討
- ・モデル地区における実施計画の策定

スケジュール



奈良公園植栽計画の展開イメージ

今年度業務の範囲

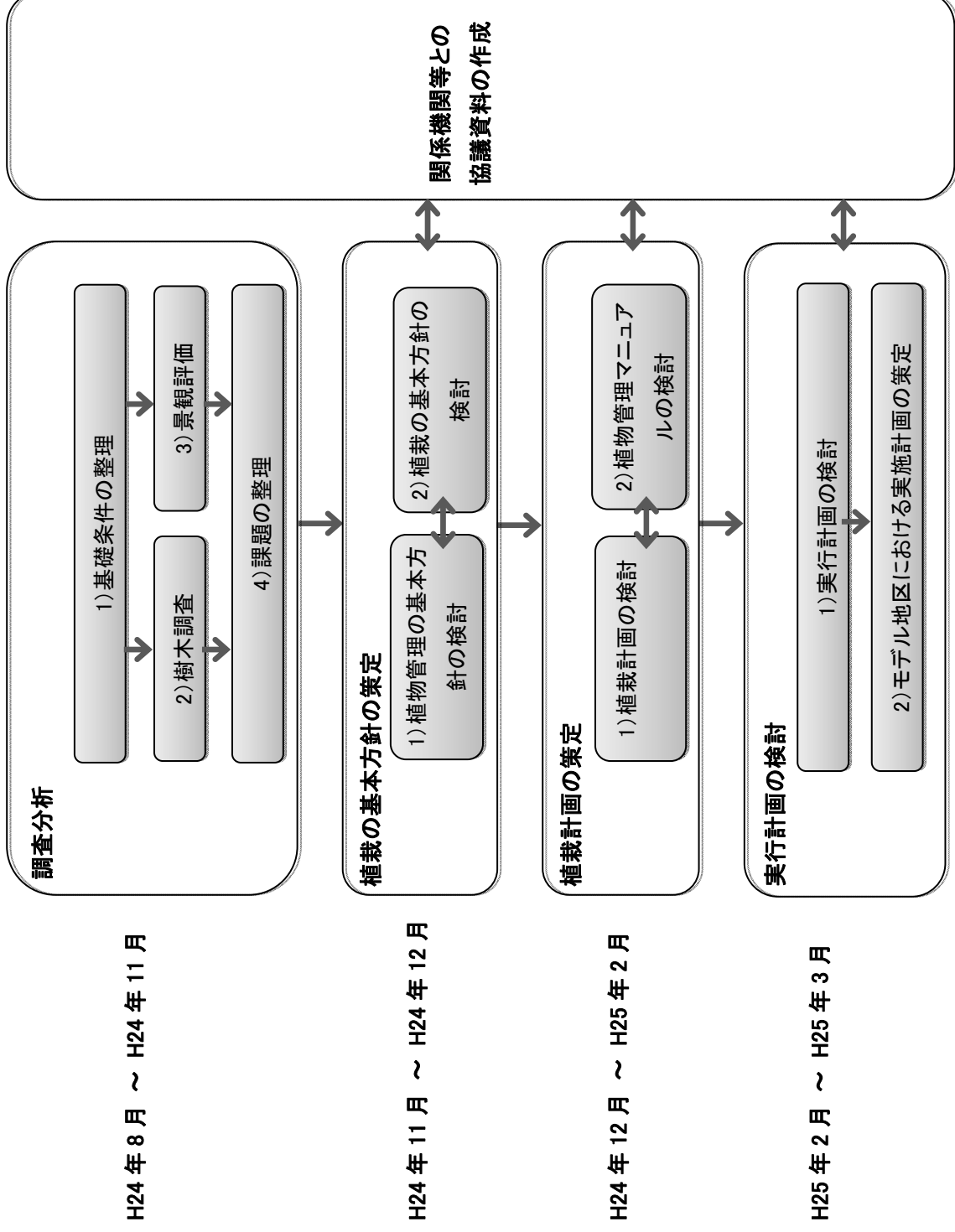


※1 公園区域と周辺地を一体のものとして捉え、広義の奈良公園の植栽計画の基本方針を設定する。

※2 公園区域及び隣接する県有施設を対象に植物管理マニュアルを作成し、これを標準マニュアルとして周辺施設に普及・誘導する。

※3 互いに隣接する施設において、一体的に保全・活用すべき植栽についての取り組みを協議・調整する。

今年度の作業スケジュール(案)



	問題点・課題	調査結果の要点（経過報告）	対応の検討(案)	論点(案)	
植栽計画に直接関わる課題・対策	① ナンキンハゼが増殖・逸出し、春日山原生林に侵入している。	<ul style="list-style-type: none"> 公園区域のほか春日大社、東大寺などにも分布していることから、一体的な対策が必要である。 公園内の実生苗の駆除作業が、管理作業の負担となっている。(年間200人・日以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 鳥散布距離等を考慮して、影響の大きい樹木から優先的に駆除する。 歴史性や景観効果を配慮して、一部限定して継承する。 	<p>論点-1：奈良公園の樹木の保存・保全の考え方と優先度について</p> <p>論点-2：奈良公園の樹木・樹林や景観の魅力のあり方について</p>	
	② 古木の樹勢が衰え、枯死し、景観が変化している。	④ 樹木生長により、樹林が過密なところがあるほか、サクラやフジ、ウメの樹木を被圧している。	<p>マツ</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園区域内のマツ本数は、平成7年に比べて半数以下にまで減少している。新植は数少ない。 枯死原因はほとんどマツクイムシ被害である。 被害が少ない区域は登大路から南大門までの区域であり、現存するマツの大半を占める。 被害の多い区域は浅茅が原、東塔跡園地、茶山園地である。 被害度の違いの主要因はマツクイムシ防除の有無であり、副次的には林相の違いと考えられる。 一部に樹勢の衰えが見られるが、全体としては比較的健全であると思われる。 		<ul style="list-style-type: none"> 現存のマツ林のマツクイムシ防除と更新植栽を徹底する。 更新を前提に余裕のある植栽地に密度を低く植栽し、景観保持と更新を両立させる。(過去の国立博物館構内の更新を参考) マツを新規植栽し、失われたマツ林を復元する。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> マツを保全・演出する区域を設定する。
		⑥ 公園の魅力向上のため、色彩感や季節感のある植栽の充実が期待されている。	<p>サクラ (分布・品種)</p> <ul style="list-style-type: none"> サクラは公園区域内で最も本数の多い樹木であり、近年も継続的に植栽されている。 品種は、春日野園地のソメイヨシノ以外は、園内各所で多様な品種が混在しており特徴がない。 主な品種は、ソメイヨシノ、エドヒガン、ココノエザクラ、ナラノヤエザクラ、フゲンゾウなどである。 浅茅が原、東塔跡園地、茶山園地のサクラは、他の樹種と混在しており目立たない。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体に生育が悪く、樹勢が衰えている。いずれの樹木も樹高が低く、樹冠も小さい。 古木は、周辺樹木の生長により日照不足となり、樹勢の衰え、樹形の悪化が目立つ。 園内各所に若木が植栽されているが、生長が遅い。 毎年枯死木が発生している。 		<ul style="list-style-type: none"> 健全なサクラの生育のため、土壌環境や日照環境の改善を図る。(周辺樹木の伐採・移植を伴う) 魅力的なサクラ景観創出のため、樹種や品種の混在を解消する。(周辺樹木又はサクラの伐採・移植を伴う) 樹木の生長を踏まえた密度管理を行う。(サクラの伐採・移植を伴う) <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> サクラを保全・演出する区域を設定する。
			<p>モミジ (分布)</p> <ul style="list-style-type: none"> モミジは、公園区域内でサクラに次いで本数が多い樹木である。 吉城川及び白蛇川に沿ったところに多数植栽されており、紅葉の名所となっている。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生育はやや悪く、樹高が低く樹冠も大きくない。植栽密度が高いところがある。 枯死はほとんどない。 		<ul style="list-style-type: none"> 健全育成のため、土壌改良や密度調整を行い、生育環境の改善を図る。(周辺樹木又はモミジの伐採・移植を伴う) 魅力的なモミジの景観を創出するため、モミジの植栽区域を拡大する。(その他の樹木の伐採・移植を伴う) <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> モミジを保全・演出する区域を設定する。
			<p>シダレヤナギ (分布)</p> <ul style="list-style-type: none"> シダレヤナギは、公園区域内の本数は多くない。 猿沢池外周に多く配植してきたが、現在数多く枯死している。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> 近年、猿沢池外周は枯死・植替・衰退を繰り返しており、大きな問題となっている。(原因不明) 		<ul style="list-style-type: none"> 猿沢池の健全な樹木生育のため、生育不良の原因を調査・把握し、生育環境の改善を図る。
			<p>ウメ・サルスベリ・フジ (分布)</p> <ul style="list-style-type: none"> ウメは浅茅が原、サルスベリは新公会堂付近及び鷺池、フジは園内箇所。 <p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> サルスベリの一部に病害の進行が見られる。 		<ul style="list-style-type: none"> 植栽計画の基本方針やゾーニングの考え方を前提に、個々の樹木の状況に応じた対策を検討する。
	③ 名木やいわれのある樹木の樹勢が衰え、枯死している。	<p>巨樹・巨木</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くは現存しているが、一部枯死や所在不明のものがある。 周辺樹木と同等寸法で判別が容易で樹木が多い。 現存しているも、樹形が大きく崩れているものがある。 <p>いわれのある樹木</p> <ul style="list-style-type: none"> 過半数が枯死している。 枯死している樹木のうち、一部は継樹種が植栽されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 古木や名木、いわれのある樹木に対する評価及び保全の考え方について整理し、適切な保全・更新を行う。 		
	⑤ 樹木生長により、若草山・東大寺大仏殿・興福寺五重塔などへの眺望景観が阻害されている。	<ul style="list-style-type: none"> 重要景観において、樹木生長により視線が遮られ、魅力が低下しているものが多く見られる。 景観阻害要因の一つとして、マツの衰退と常緑広葉樹の伸長がある。(樹木のシルエットが影響) 眺望確保のための剪定は樹形悪化を招きやすく、技術や経費の面でも課題が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 眺望確保のために樹高調整を要する植栽は、以下の対応を検討する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 視線が抜けるように、植栽密度を下げる。(伐採・移植を伴う) ② マツ等視線が抜けやすい樹種に変更する。(伐採・移植を伴う) ③ 樹林を除去して草地化する。(伐採・移植を伴う) ④ 剪定が容易な樹形に仕立てる。 		
植栽計画に間接的に関わる課題・対策	⑦ 吉城園やその周辺地、その他の古都買入地などが低未利用であり、樹林等も繁茂、荒廃している。		<ul style="list-style-type: none"> 植栽計画の基本方針やゾーニングの考え方に対応して、植栽のあり方を検討する。 		
	⑧ 観光交流拠点となるべき、県庁舎周辺地区の魅力が不足している。				